

1. 日 時： 2025年7月18日(金) 13:00 ～ 17:00

場 所： 神戸大学深江キャンパス 梅木 N ホール

参加費： ￥3,000 (仕出し弁当、おつまみ、お茶、缶ビール等、飲食料費に充当)

2. 出席者 会員 21 名

3. 内容

プログラム1 関西シニア海事研究会 総会 司会： 大柴 隆士

<2025年度総会>

(1) 来賓挨拶 関西支部長： 片山 徹 殿

関西支部では、関西造船協会の時代から、海事全般にわたる学術技芸の講習、会員の技術力向上の支援、会員の親睦促進、これらを通じて、社会に貢献することを目的として各種事業を計画実行し、教育、学習、並びにネットワーキングの場を提供しています。 K シニアもその中の一つとして、2006年より活動をしていただいております。その中で、造船資料の保存、ふね遺産、海友フォーラムなど様々な活動を実施しており、今後も活発に活動していただきたいと思います。五月の総会にて御挨拶しましたが、近年の船舶海洋の分野では、さらなる発展のために取り入れるべき事が増えてきています。学問の分野、連携すべき産業の分野の範囲もこれまで以上に広がっている状況です。このような状況で学会としては、同分野の産・官・学・民のネットワークだけではなく、この分野の周辺産業、学際的領域との積極的なネットワークづくりの場の提供をしていかなければならないと思っています。これら関西支部にて実施している企画も活発に活動していただいておりますが、対応すべきネットワーキングの領域が広がっている事と、スピードが速くなってきている事があって、私の意見としては、企画によっては少し合わないところもあると感じていますので、今後より良いサービスを提供して、現会員の皆様に満足をいただき、ネットワークでつながった方々に、新たに会員になっていただくことを考えており、まずは現在の企画を評価して直すべきところは直してまいります。 K シニアの皆様には高所大所よりアドバイスをいただきたく、よろしくお願いいたします。

(2) 2024年度活動及び会計報告 会長： 宝田 雄次

Kシニアの会員数は、約 250 名で、内訳は、メール会員が約 210 名、はがき会員が約 40 名です。幹事会は、現在 8 名にて運営しており、総会・懇親会は、昨年 7 月に開催し、幹事会は 4 回開催しました。

グループ活動につきましては、「海友フォーラム」及び「保存グループ」は活発に活動し、その内容はホームページを通して会員に報告しています。

なお、ホームページの管理・運営は創設以来、黒井幹事に委ねていましたが、体調の問題もあり、また将来にわたる継続的な管理・運営を考慮し、外部委託としました。

本会の 2024 年度の会計報告ですが、ほぼ計画通りに執行され、結果 4,715 円の収支差額となりました。

(3) 2025 年度活動計画及び予算 会長： 宝田 雄次

本会の活動として、

- ・年央に会員の参加を得て総会を開き、会の運営やグループ活動の状況を報告すると共に、シニアライフの紹介等を通じて、会員諸氏の本会活動への理解を深め、参加者の増大に努めます。
- ・HP を拡充して会員一般への広報に努め、広くシニアライフの充実に寄与します。
- ・グループ活動の発展に努め、新たな活動も模索する。
- ・他委員会からの要請があれば協力し、学会関西支部の活動 にも寄与します。
- ・幹事 8 名で幹事会を構成し、会の運営に当たります。

本年度の予算は、

収入は、事業収益として、80,000 円、受取年会費として 100,000 円、合計 180,000 円としています。

支出は、旅費交通費 4,000 円、通信運搬費 18,000 円、賃借料 25,000 円、会合費 70,000 円、会議費 8,000 円、委託費 50,000 円等、合計 180,000 円としています。

< グループ活動報告 >

(1) 保存グループ 造船資料保存委員会委員長： 内藤 林

新しい造船資料保存委員会 (D 館) への投稿規定の趣旨について説明させていただきます。 近年、造船資料保存委員会に各分野の方々よりの資料保存要請が増加していますが、その要請にこたえて、委員が資料をデジタル化して保存する作業は大変な作業であり、また、より多くの計算機の記憶容量が要求されます。 これを改善するために、投稿について、いくつかの条件を設けます。 今年、すでに投稿があり、一つは故元良誠三先生の各種資料を、先生の卒業生有志の方々が整理して東大内にサイトを作成し、これとリンクを張ることにより、造船資料保存委員会のサイトを通じて会員が閲覧できるようになりました。 もう一つは、故別所正利先生の各種資料も、木原先生を中心にデジタル化され、保存整理されています。 これも造船資料保存委員会を通じて閲覧できるようになりました。 また、日本各地の造船業の歴史をまとめていますが、近いうちに「播磨の船の半世紀」(石津康二会員) が「デジタル造船資料館」に搭載される予定です。 さらに、佐賀県の造船資料関連のグループからも要請が来ており、搭載を検討しています。

この様に、海外も含めて「デジタル造船資料館」を中心にリンクを張り、会員が資料を自由に閲覧できる環境を整える事を考えています。

(2) 海友フォーラム 海友フォーラム会長： 濱田 孝一

定例懇談会として、3 か月ごとに年 4 回の懇談会を実施しています。 開催場所は、いずれも川崎重工業神戸の海友館新館です。

・ 2024 年度

48 回 4 月 24 日 小嶋 良一さん「北前船の航海状況等についての考察」

49 回 7 月 24 日 小林 幹弘さん「2019 年 (造船関係) ～ミャンマー [ヤンゴン] ・インドネシア [バタム島] ・台北 [馬祖南竿島] の一端紹介

50 回 10 月 25 日 小林 幹弘さん 「垣間見たコロナ流行前の中国の造船所など」
並川 俊一郎さん 「船舶解体と環境問題について」

<別途報告>

ふね遺産の報告 前ふね遺産認定実行委員会委員長： 小嶋 良一 殿

第9回のふね遺産は、令和7年5月19日に開催されました「ふね遺産審査委員会」にて、5件が認定されました。

1. 御採取船「葉山丸」

ふね遺産第52号(現存船第23号)：旧横須賀海軍工廠で建造された昭和天皇の御採取船

2. スカンジナビア(旧ステラ・ポラリス)

ふね遺産第53号(非現存船第13号)：レジャー産業の創設と地域振興に貢献した日本初の
フローティングホテル・レストラン

3. 帆船「やまゆり」

ふね遺産第54号(現存船第24号)：東京オリンピック(1964年)に向けて建造され、今
なお海洋思想普及に活躍する2本マストの木造帆船

4. 明石型生船に関する歴史・造船資料一式

ふね遺産第55号(造船関連資料第7号)：大きなシアーラインを有し、7,000隻余りが建造
された活魚運搬船に関する歴史・造船資料

5. 元禄菱垣廻船模型

ふね遺産第56号(造船関連資料第8号)：元禄5年に奉納された現存するもっとも古い弁
才船模型

第9回の「ふね遺産」の認定式は、9月に東京にて行われます。

<見学>

神戸大学練習船「海神丸」の見学

尾崎機関長殿の御案内により、甲板上及び船内の見学を実施。

プログラム2 懇親会 司会： 大柴 隆士

(1) 乾杯 岡本 洋会員のご発声で乾杯。

(2) 歓談

(3) 中締め 脇田 典英会員のご発声中締め。

以上

2024 年度決算

	科 目	金 額
収 入	事業収益（総会会合費）	78,000
	受取年会費（本部からの配分金）	115,000
	合 計	193,000
支 出	旅費交通費	2,640
	通信運搬費（ハガキ、サーバー借用）	12,064
	賃借料（総会施設使用）	15,168
	会合費（総会会合費）	66,181
	会議費（幹事会会議室借用）	5,100
	委託費（ホームページ管理・運用）	87,022
	雑費	110
	合 計	188,285
	収 支 差 額	4,715

2025 年度予算

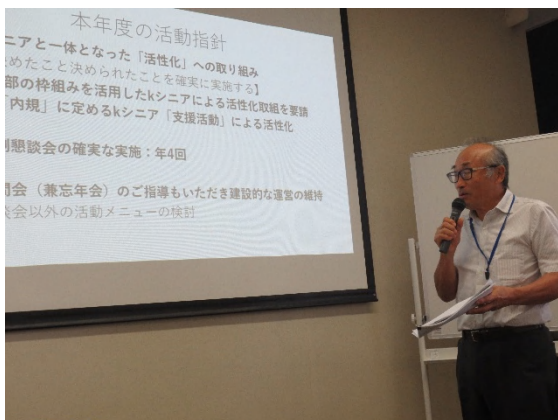
	科 目	金 額
収 入	事業収益（総会会合費）	80,000
	受取年会費（本部からの配分金）	100,000
	合 計	180,000
支 出	旅費交通費	4,000
	通信運搬費（ハガキ、サーバー借用）	18,000
	消耗品費	4,000
	賃借料（総会施設使用）	25,000
	会合費（総会会合費）	70,000
	会議費（幹事会会議室借用）	8,000
	委託費（ホームページ管理・運用）	50,000
	雑費	1,000
	合 計	180,000
	収 支 差 額	0



片山船舶海洋工学学会関西支部長



内藤造船資料保存委員会委員長



濱田海友フォーラム会長



神戸大学練習船「海神丸」



尾崎機関長



後部甲板上



操舵機室



集合写真